




審査結果の要旨

報告番号	甲 第 1313 号	氏名	小林 雄大
審査担当者	主査	山下 裕太郎	
	副主査	吉田 典子	
	副主査	恵 紘 英 昭	
主論文題目： Workplace Violence and Its Effects on Burnout and Secondary Traumatic Stress among Mental Healthcare Nurses in Japan (日本の精神科看護師における、職場での暴力とバーンアウト、二次性トラウマティックストレスとの関連について)			

審査結果の要旨 (意見)

8か所の精神科病院に勤務する看護師、准看護師 599 名を対象に 12 か月間の Workplace violence (WPV) とバーンアウトの実態とバーンアウトと二次性トラウマティックストレスとの関係を調査した研究である。回答者の 40% が WPV を経験し、多変量ロジスティック回帰解析では、職種とバーンアウトが WPV と関連しており、二次性トラウマティックストレスとは関連がなかった。本研究は、精神科勤務の看護師の WPV の実態とバーンアウトの関係を明らかにした重要な研究であり、今後、WPV の予防やバーンアウトさせないための方略を考える上でベースとなる貴重な研究である。学位論文としてふさわしい。

論文要旨

医療現場における職場での暴力 (WPV : Workplace Violence) は 20 年以上に渡って注目を集めてきたが、WPV と精神的影響との関連についての研究はまだ少数に留まっている。そこで我々は横断的研究デザインを用いて、(1) 過去 12 か月間の WPV の有無、(2) WPV の性質、(3) WPV とバーンアウト、二次性トラウマティックストレスとの関連について、8 病院 599 人の精神科看護師 (准看護師を含む) を対象に調査を行った。回答者の 40 パーセント以上が過去 12 か月間に WPV を経験していた。多変量ロジスティック回帰分析の結果、職種とバーンアウトはそれぞれ WPV と有意な関連が認められた。二次性トラウマティックストレスは WPV との関連は認められなかった。この結果は、WPV は短くて非常に恐ろしい体験というよりはむしろ、慢性的に持続し累積するストレスであり、精神科病棟における精神的影響の特性を反映しているかもしれない。WPV の程度や頻度、業務と関連するまたは関連しないストレス、リスク因子、保護的因子に関する縦断的研究が必要であり WPV による精神科看護師の精神的疲弊を軽減するプログラムの開発が期待される。